墓域は7.3×4.3mの集石群で区画されていた。韓国支石墓には同様遺構が多く存在するようであり（注２）、本遺跡の石列の機能想定と、彼我の比較検討が肝要である。

ー２．ピット群

Ｄ地点平坦部で多く確認されているが、住居跡を構成するようなまとまりは見せていない。しかし、部分的な狭小な範囲での確認であり、より広範囲での検討が必要である。時期的には５－10トレンチでＩ期に属する土器が出土しており、先年大村市教育委員会が調査（注３）した出土遺物との関連が認められるため、市域を超えた総合的な検討が必要である。

ー３．支石墓石材供給地

Ｆ地点において玄武岩の路頭が存在し、昭和51年度の調査時点においても注意が喚起されていた。玄武岩の石材は節理面が並行に走るため板状に剥離し、厚いものは上石として、薄く剥離したものは石棺材や蓋石として利用しており、路頭周辺には削片が多く散乱している。この状況からすると、石材供給地周辺で荒成形したものを運搬したようである。

この様子を『志登支石墓群』（注４）「三、大石の運搬」で使われた数式に当てはめて算出すると、第１表のようになる。この表は上石の容積を計算し、これに玄武岩の比重を掛けて重量を出したものである。牽引力欄は20度勾配の坂を引上げるときに必要な力を、係数0.15を乗じて算出し、これに基づいて所要人数を割り出している。

例えばＤ地点34号支石墓（ＳＡ７）を造墓するには、最低で９人での作業が必要であり、一定距離を移動させるためにはかなりの作業量を要したことになる。この表は支群別にまとめたもので、これを見るとＡ・Ｂ地点を除いて内部主体が石棺である支石墓の上石が、表中の支群中下方に位置している。すなわち石棺を採用する支石墓の上石が土壙のものより大きく、かつ重量があり、それだけ作業量が大きかったことを示している。

このように見てくると、石棺を内部主体にするものと、土壙を内部主体にするものとの間には、何らかの差異が見られる。これはまた内部主体の閉塞方法や支石の有無とも幾分関係を有するようである。Ｄ地点では石棺の周辺に土壙が分布する傾向が窺え、この現象は共同体内における性差、階層差などを表象しているようにも推察される。

県内の支石墓の一覧表は掲載していないが、南北に狭小な長崎県の地質を『長崎県地質図』（注５）でみると、支石墓所在地の周辺部には玄武岩が表層に分布している。換言すると玄武岩分布地の近くに支石墓が造営されたことは明らかであり、この傾向は佐世保市宇久町の宇久松原遺跡（注６）、平戸市津吉遺跡（注７）、里田原遺跡（注８）など該当し、また県南では有家町の西鬼塚支石墓（注９）が該当するなど、多くの支石墓の分布と玄武岩分布域が重なる傾向を見せている。

弥生時代のメルクマールの一つである支石墓は、計画的な生産手段の獲得や、往時の共同体構成員が共有したであろう遺物としては残りにくい規制・規範・宗教とともに、新たな墓制と

して導入されたのであるが、その導入の態様は種々であり、より広範な遺跡間の分析により闡明されるであろう。

（単位：m、kg、人）

No		属性	支群	上石寸法 長さ	上石寸法 幅	上石寸法 厚さ	重　量 ×2.87(玄武岩の比重)×1000kg	20%勾配 ×0.15（係数）	所要人数 30kg／人
1	22号支石墓	ＳＢ３	A	1.3	1	0.2	747	112	4
2	21号支石墓	ＳＢ１	A	1.55	1	0.2	890	134	5
3	23号支石墓	ＳＢ８	A	1.2	0.9	0.3	930	140	5
4	24号支石墓	ＳＢ13	A	1.4	1.1	0.2	884	133	5
5	１号支石墓	ＳＡ	B	1.25	1.25	0.15	673	101	4
6	２号支石墓	U	B	1.6	0.9	0.4	1654	248	9
7	３号支石墓	ＳＢ	B	2.1	1.6	0.3	2893	434	15
8	26号支石墓	ＳＢ７	C	0.96	0.62	0.1	171	26	1
9	27号支石墓	ＳＢ９	C	1.56	1	0.17	762	115	4
10	６号支石墓	ＳＡ	C	1.3	1	0.22	821	124	5
11	４号支石墓	ＳＡ	C	1.5	1.2	0.2	1034	155	6
12	28号支石墓	ＳＡ１	C	1.75	1.05	0.2	1055	159	6
13	29号支石墓	ＳＡ２	C	1.2	1	0.3	1034	155	6
14	８号支石墓	ＳＢ	C	1.6	1.6	0.2	1470	221	8
15	17号支石墓	ＳＡ	C	2.02	1.4	0.22	1786	268	9
16	５号支石墓	ＳＡ10	C	2	1.5	0.3	2583	388	13
17	７号支石墓	ＳＡ	C	1.9	1.3	0.35	2482	373	13
18	20号支石墓	ＳＡ	C	1.8	1.2	0.5	3100	465	16
19	10号支石墓	ＳＡ	C	2.8	1.7	0.28	3826	574	20
20	９号支石墓	U	C	2.1	1.7	0.43	4406	661	23
21	18号支石墓	U	C	2.04	1.83	0.59	6322	949	32
22	38号支石墓	ＳＢ４	D	0.6	0.6	0.15	155	24	1
23	44号支石墓	ＳＢ15	D	0.75	0.7	0.12	181	28	1
24	43号支石墓	ＳＢ14	D	0.85	0.67	0.2	327	50	2
25	47号支石墓	ＳＢ18	D	0.92	0.62	0.2	328	50	2
26	50号支石墓	ＳＢ22	D	1.25	0.7	0.1	252	38	2
27	42号支石墓	ＳＢ11	D	1	0.8	0.2	460	69	3
28	31号支石墓	ＳＡ４	D	1.1	1	0.2	632	95	4
29	41号支石墓	ＳＢ10	D	1.25	0.9	0.2	646	97	4
30	45号支石墓	ＳＢ16	D	1.17	0.95	0.25	798	120	4
31	30号支石墓	ＳＡ３	D	1.5	1	0.2	861	130	5
32	37号支石墓	ＳＡ11	D	1.62	0.93	0.22	952	143	5
33	32号支石墓	ＳＡ５	D	1.7	1.05	0.2	1025	154	6
34	35号支石墓	ＳＡ８	D	1.25	0.9	0.35	1131	170	6
35	34号支石墓	ＳＡ７	D	1.8	1.3	0.25	1679	252	9
36	16号支石墓	U	E	1.1	0.84	0.17	451	68	3
37	12号支石墓	U	E	1.5	1.4	0.2	1206	181	7
38	13号支石墓	ＳＡ	E	2	1.2	0.2	1378	207	7
39	52号支石墓	ＳＢ12	E	1.97	1.03	0.35	2039	306	11
40	15号支石墓	ＳＡ	E	2	1.55	0.3	2670	401	14
41	11号支石墓	U	E	1.6	1.35	0.5	3100	465	16
42	53号支石墓	ＳＢ２	F	1.25	0.98	0.25	879	132	5
43	110号支石墓	U	E	1.86	1.03	0.35	1925	289	10

U……不明

第１表　支石墓上石重量・牽引力・人員表

注１　前原町教育委員会「長野川流域の遺跡群　Ⅰ」『前原町文化財調査報告書』第31集 1989

注２　河仁秀（甲元眞之訳）「嶺南地方支石墓の型式と構造」『古文化談叢』第32集　1994

注３　大村市教育委員会「黒丸遺跡ほか発掘調査概報 Vol.2」『大村市文化財調査報告書』第24集　2000

注４　文化財保護委員会「志登支石墓群」『埋蔵文化財調査報告　第４』1956、（文化庁「志登支石墓群」『埋蔵文化財調査報告　第４』1976）

注５　内外地図株式会社『長崎県地質図　1/200,000』

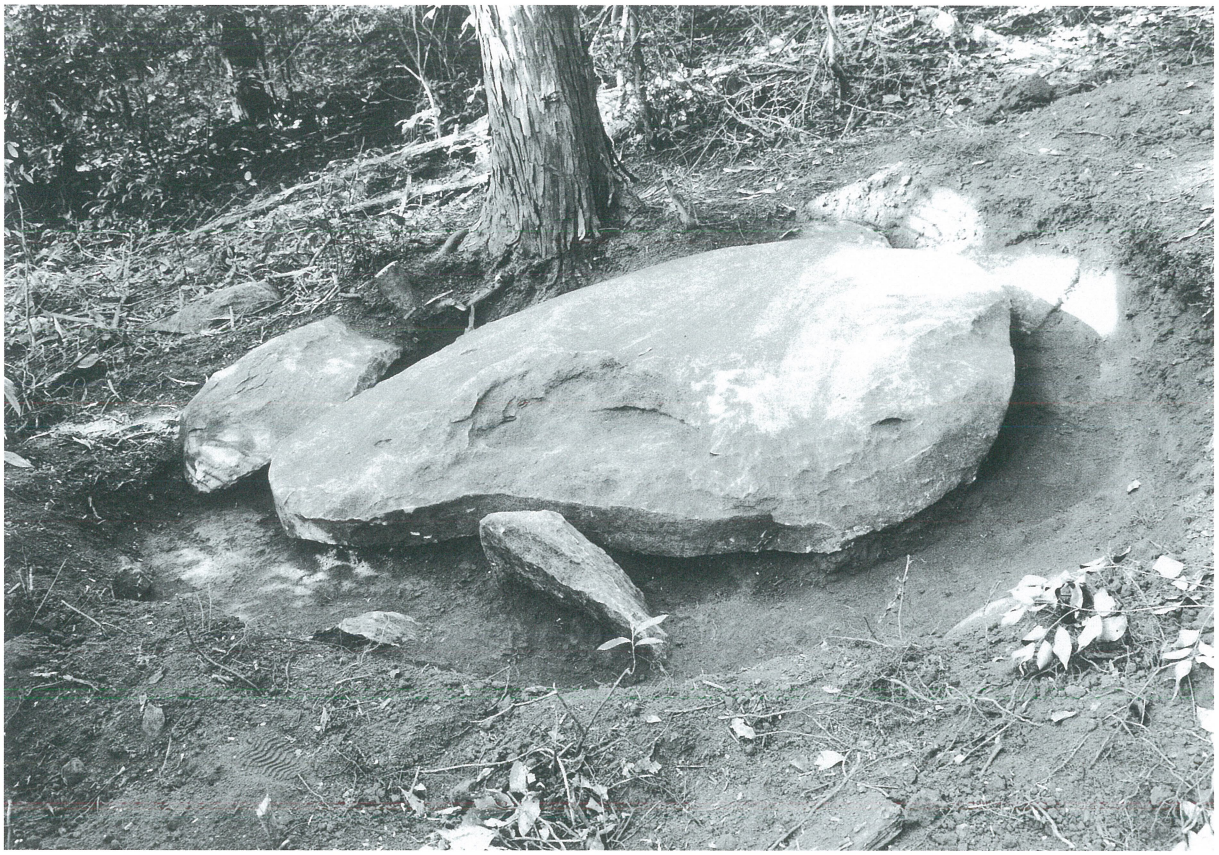
注６　宇久町教育委員会「宇久松原遺跡」『宇久町文化財調査報告書』第４集 1997

注７　平戸市教育委員会『津吉遺跡群』1986

注８　田平町教育委員会「里田原遺跡」『田平町文化財調査報告書』第９集 2003

注９　有家町教育委員会「西鬼塚支石墓・石棺群」『有家町埋蔵文化財調査報告書』第３集 1997

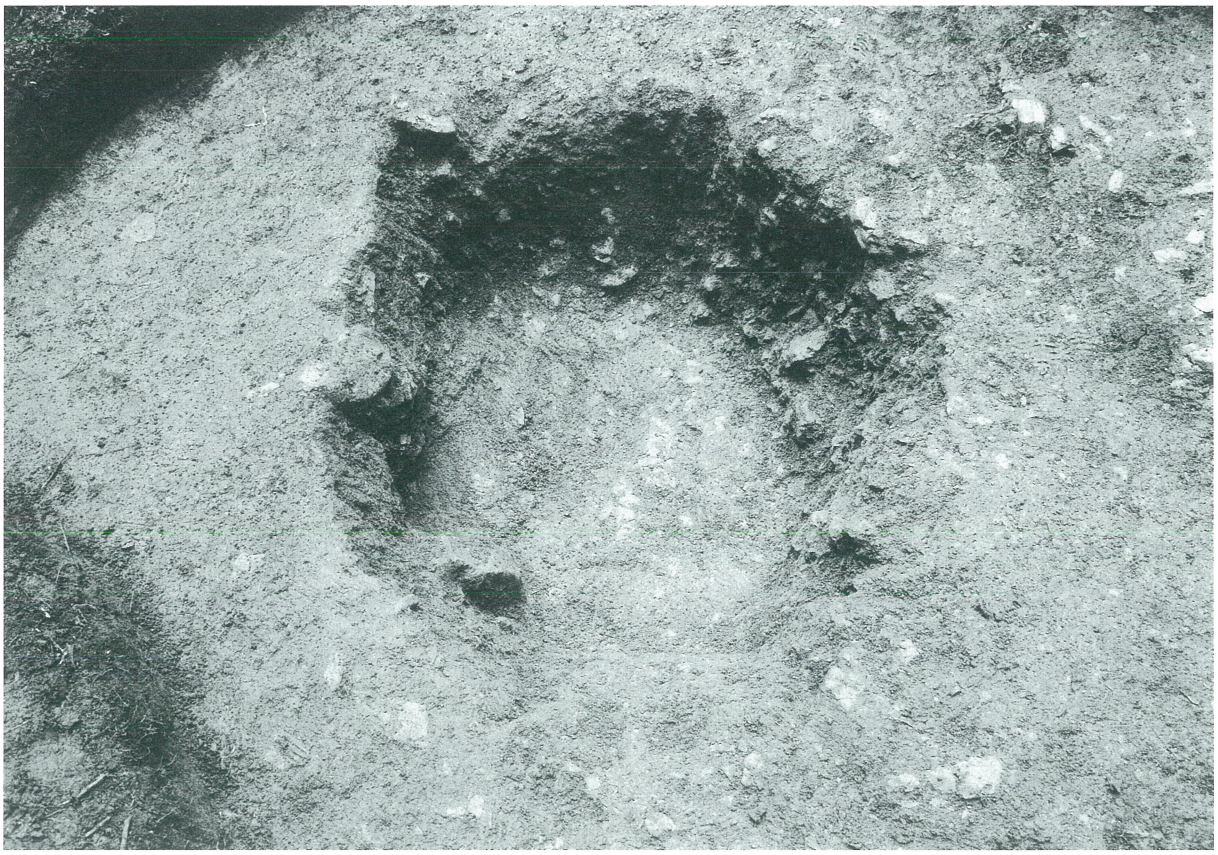
図　　版



－1　21号支石墓（東から）

－2　同内部主体（西から）

－1　22号支石墓（南東から）



－2　同内部主体（南東から）

－1　23号支石墓（南東から）

－2　同上石除去後（北東から）

－1　24号支石墓（東から）

－2　同上石除去後（上手石材下に土壙がある）

－1　25号支石墓上石と内部主体（西から）

－2　同土壙断面（西から）

－1　26号支石墓（北から）

－2　同内部主体（東から）

－1　27号支石墓（北東から）

－2　同内部主体（北西から）

－1　27号支石墓（東から）

－2　28号支石墓と5号支石墓（西から）

－1　28号支石墓蓋石1層目の状況（南から）（上方は5号支石墓）

－2　同内部主体（西から）

－1　28号支石墓内部主体（北から）

－2　29号支石墓（東から）

－1　30号支石墓（東から）

－2　同蓋石２層目の状況（南東から）

－1　30号支石墓蓋石（石棺直上）（東から）

－2　同内部主体（南東から）

－1　31号支石墓上石（右下は30号支石墓内部主体）（東から）

－2　同蓋石１層目の状況（上の石は32号支石墓上石）（南東から）

－1　31号支石墓蓋石２層目の状況（南東から）

－2　同蓋石（石棺直上）（南東から）

－1　31号支石墓蓋石除去後（南から）

－2　同内部主体（南から）

－1　33号支石墓蓋石（北西から）

－2　同内部主体（東から）

－1　33～37号支石墓近景（北から）

－2　34号支石墓（北から）

－1　34号支石墓（東から）

－2　同内部主体（東から）

－1　35号支石墓（北西から）

－2　同上石の状況（北から）

－1　35号支石墓上石除去後（北から）

－2　同蓋石1層目の状況（北西から）

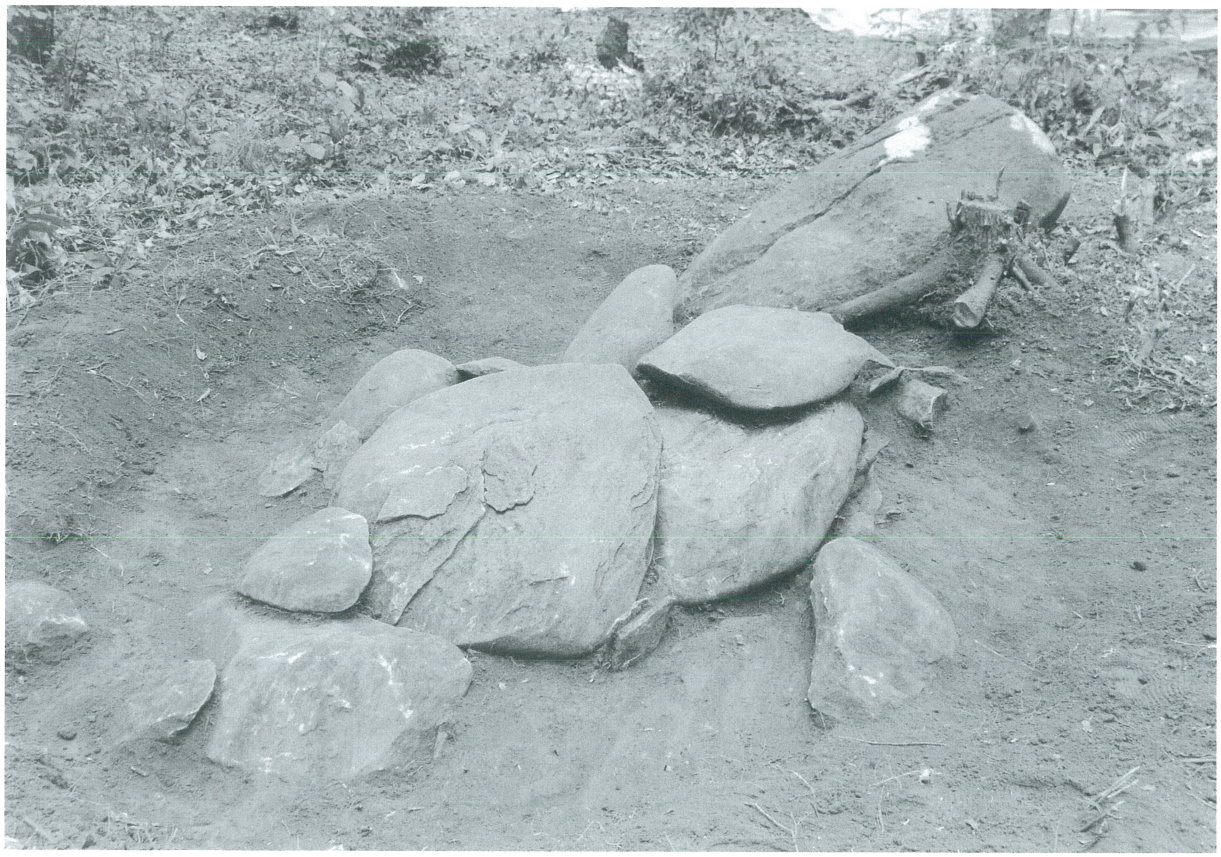
－1　35号支石墓蓋石（石棺直上）（北から）

－2　同内部主体半掘状況（北から）

－1　35号支石墓内部主体（北から）

－2　同内部主体（西から）

－1　36号支石墓（南東から）

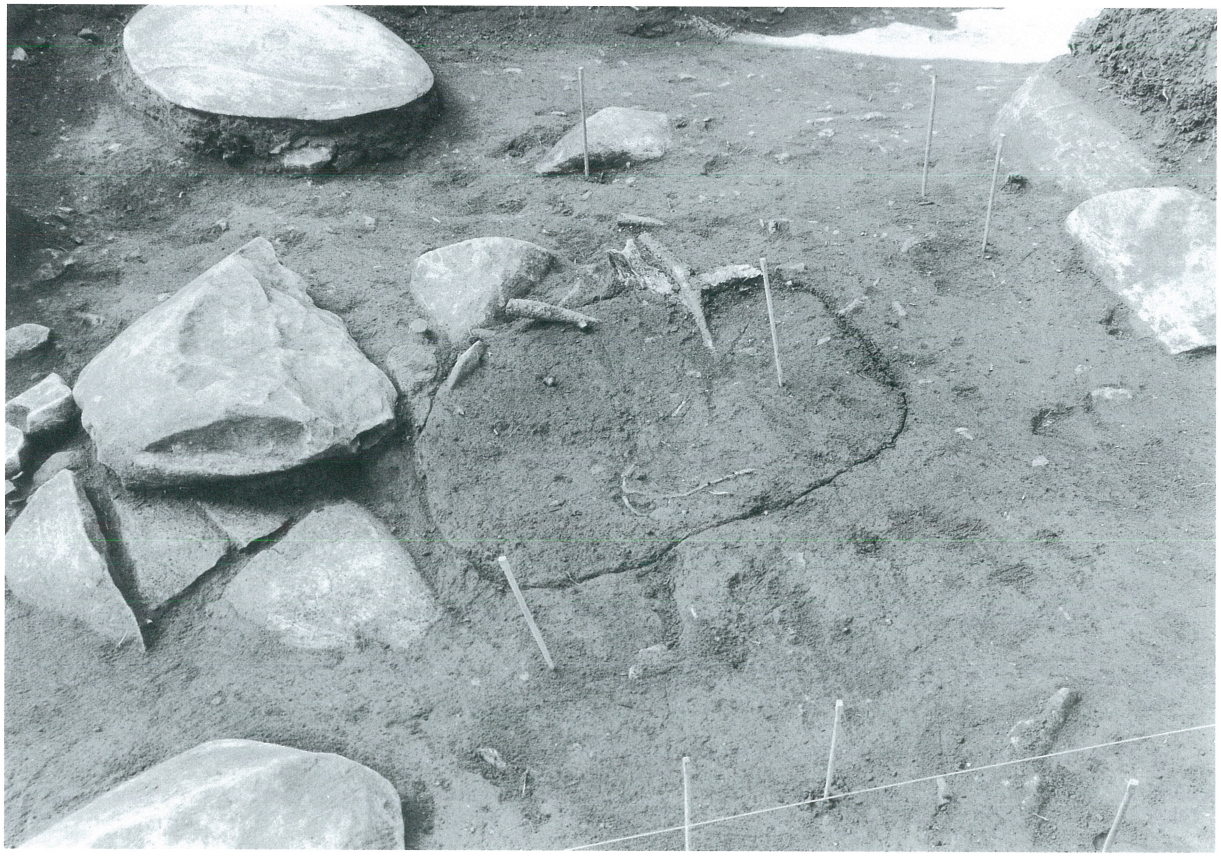


－2　同上石（北東から）

－1　38号支石墓（南西から）（上石の左側に磨製石斧が出土）

－2　同上石（北西から）

－1　38号支石墓磨製石斧出土状況（北西から）



－2　同土壙検出状況（西から）

一１　38号支石墓内部主体半掘（北西から）

一２　同内部主体半掘（南東から）